

事業報告

〔自 令和 5 年 4 月 1 日〕
〔至 令和 6 年 3 月 31 日〕

1.事業の概況

（１）事業の経過及び成果

前期に引き続き、富山市の公共施設である八尾地域都市公園、神通川水辺プラザ自然ふれあい学習館、久婦須川ダム周辺広場、八尾パインパーク、八尾サンパーク、八尾ゆめの森交流施設の指定管理者として、施設の管理運営業務を行いました。

また、自主事業として、富山八尾中核工業団地内の道路法面の管理業務を受託するなど、自主財源の確保にも努めました。

当期の純損益は、営業収益 276,982,579 円から営業費用 286,857,618 円を差し引いた営業損失が 9,875,039 円、ここに営業外収益及び費用、法人税等を含めた当期純損失は 3,665,228 円となりました。

（２）財産の状況

当期末の総資産は 105,333,906 円、純資産は 60,534,309 円となりました。

（３）今後の取り組み

北陸管内の経済動向は、北陸経済調査によれば、総括判断は能登半島地震の影響は残るものの、復旧・復興需要や北陸新幹線の敦賀延伸効果等もみられることから、緩やかに持ち直しつつあると報告されています。

また、先行きについては、持ち直していくことが期待されるが、引き続き、地震の影響については十分注意する必要があるとされています。

温泉宿泊施設「ゆうゆう館」では、宿泊客数は前年をやや下回り、コロナ前の令和元年度と比較し 9 割程度となりましたが、宴会客数は昨年度の 2 倍強になったものの令和元年度の 7 割にとどまり、コロナ禍以降、依然として厳しい経営が続いております。

こうした中、良質なサービスの提供による再訪率の向上、広告等による積極的な営業、事務処理の効率化などの経営努力を行い、企業収益を改善するとともに、お客様に極め細かいサービスを提供できるよう最大限の努力を払ってまいります。

これからも、地域に根付き、親しまれ、信頼される企業を目指し、より良い施設運営に取り組み、地域の発展に寄与してまいります。